

シマ・バフース国連女性機関 (UN Women) 事務局長が来日、WAW!で基調講演

シマ・バフース国連事務次長兼国連女性機関 (UN Women) 事務局長が12月3日に東京で開催された2022 WAW! (World Assembly for Women) に参加、来賓として基調講演を行いました。WAW!は、世界の様々な地域、国際機関から女性の分野で活躍するトップ・リーダーが参加し、日本及び世界における女性のエンパワーメント、女性の活躍促進のための取組について議論を行う会議で、2014年以来、毎年開催されています。シマ・バフース氏は、「正面から取り組もう」をテーマに以下のように語りました(抄訳)。

WAW!は、環境、気候変動、エネルギー、金融、公共政策、公安などの主要な議題について、女性と少女が果たすことができ、また果たさなければならない独自のリーダーシップの役割について話し合う良い機会です。

SDGsの2030年のゴールまであと半分近くになりました。あと7年。現在の進歩のペースでは、ジェンダー平等を達成するのに7年ではなく、300年もかかると申し上げなくてはなりません、大変悲しいことです。

激しい紛争、紛争による強制的避難、気候緊急事態の増大、世界的パンデミックの影響、そして声高な反フェミニスト運動は、女性が今まで勝ち得てきた権利を後退させました。これらの危機は、女性と少女に最も大きな打撃を与えました。

私たちが目指すべき変化を推進できる3つの横断的分野領域に焦点を当てたいと思います。第一に、社会変革の強力な力としての女性と少女の権利を保護し、支援することです。第二に、女性が男性と同等に意思決定の場に参加でき、指導的地位につけるよう保証することです。第三に、ジェンダー平等追求のために私たちがしてきた様々な約束が資金調達に反映されることです。

私は、岸田政権がWAWの焦点を「新しい資本主義に向けたジェンダー主流化」と宣言されたことを高く評価します。社会の発展の中で女性が果たすユニークな役割と、女性のエンパワーメントの経済的利益を認識することは、とりもなおさず先見性とリーダーシップを示しています。

ジェンダーの不平等は重大な経済的課題です。世界の生産年齢人口の半分を占める女性が経済的潜在能力を十分に発揮しなければ、私たちは皆、弱体化してしまいます。

第二に、差別的な規範、法律、慣行など、ジェンダー平等に対する長期的かつ構造的障壁に対処し、それを廃止しない限り、SDG5の進展は手の届かないままです。ガラスの天井はまだそのまま残っています。世界的に見ると、民間部門では、管理職または監督者の女性はまだ3人に1人ぐら

いです。女性は世界の国会議員の4人に1人しか占めておらず、地方自治体に選出された議員のわずか34%です。そして、権力の階層が高くなっていくほど、女性の数はさらに少なくなります。女性は国家元首と政府の長のわずか10パーセント未満しか占めていません。

しかし、私たちの励みとなる一筋の燭光も見られます。日本には、WEPsと呼ばれる女性のエンパワーメント原則に署名した企業が300社近くあることを知り、大変うれしく思っています。WEPsは、職場、市場、コミュニティでジェンダー平等と女性のエンパワーメントを促進する方法についてのガイダンスを企業に提供しています。

ジェンダー平等は、開発と進歩のための特効薬に最も近いものです。これは、私たちの目標全体を成功に導く最も強力な手段です。ジェンダーの平等と安定、回復力、貧困削減、成長、社会的結束の間には密接な相関関係があります。したがって、SDG5はすべてのSDGsの基本です。ジェンダー平等がなければ、持続可能な開発目標のいずれも達成できません。

日本は2023年にG7の議長国に就任します。私は日本に、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントをグローバルなアジェンダの中心に据えるよう呼びかけます。日本が岸田総理のリーダーシップの下、まさにそれを実施なさると確信しています。また、日本は国連安全保障理事会の議席も獲得しており、世界が直面している危機の中で女性と少女を助けるために、世界中の女性、平和、安全に取り組むことを呼びかけます。

UN Womenは、これらの課題に正面から取り組んでゆく日本の揺るぎないパートナーであり続けます。

この会議の実りある議論と、日本が、世界がまさに必要としている変化をもたらす上での重要なリーダーシップをとられることを楽しみにしています。

(抄訳：本田敏江副理事長)



シマ・バフースUN Women事務局長が国際女性会議で講演

写真: UN Women/Emmi Okada

Speech:Tackling challenges head on | UN Women - Headquarters

ジェンダー主流化を實踐に ～国際女性会議WAW!2022～

外務省総合外国政策局女性参画推進室長 古本建彦

12月3日、国際女性会議WAW!が3年ぶりに開催されました。今回のWAW!2022では、ヨハネソン・アイスランド大統領とUN Womenのバフス事務局長をキーノートスピーカーとして東京にお迎えして、ハイブリッド形式で「新しい資本主義に向けたジェンダー主流化」をメイン・テーマに、幅広く議論しました。また、全国22か所のサテライト会場と東京の会場とを繋ぎ、地方からの直接参加を可能としました。結果、当日の対面参加者は閣僚級の方々から若者まで300人以上、26か国から119名が登壇しました（ビデオ・メッセージによる参加を含む）。また、YouTubeでの再生回数は1万6千件を超えました。

冒頭、岸田総理から、女性の経済的自立は、新しい資本主義の中核であり、誰もが生き生きと暮らせる社会を実現する



には、女性の立場からの視点を制度や政策に反映することが欠かせないこと、そのためにも、ジェンダー主流化を取り入れた成長と分配の好循環を推し進めてきたことが述べられました。さらに、2022年9月に岸田総理がHeForSheのチャンピオンに就任したことを受け、バフスUN Women事務局長から記念品が贈呈されました。

続いて行われた基調講演では、まずヨハネソン・アイスランド大統領から、ジェンダー平等は、社会の全てに裨益し、繁栄や国家の競争力にも繋がるものであること、また、必要なのは変化を引き起こす意志であることが述べられました。



また、バフス事務局長から、ジェンダーに基づく暴力により、世界では11分に1人が命を落としている現状が紹介され、そうした中で、女性に対する暴力の撲滅のために行動を起こすべきとの強いメッセージが発せられました。

今回のWAW!ではさらにハイレベルラウンドテーブルと10の分科会、2つの特別セッションが開催されました。当日の議論は以下のサイトで視聴できます。

https://www.mofa.go.jp/mofaj/fp/hr_ha/page22_003904.html

UN Womenは、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを進める上で重要な役割を担っています。日本政府としましては、第5次男女共同計画においても明記してあるとおり、今回のWAW!の議論の成果を踏まえて、ジェンダー主流化に向けてUN Womenとのさらなる連携強化に取り組んでいきたいと考えています。



応援メッセージ

「ジェンカレ」代表 櫻井彩乃

私は、若者がジェンダー平等に向けて連携し、声を政策に反映させることを目指し活動しています。30歳未満の若者でつくるプロ



ジェクト「#男女共同参画ってなんですか」では、第5次男女共同参画基本計画素案へのパブリックコメント手続きを通じ、1,050件の若者の意見と、提言書を担当大臣に手渡しました。この際、「ジェンダー平等に関心がある」社

会に違和感を持つ若者が大勢いると実感したものの、「自分の声や行動で社会が変わると思えず、何をしたらいいのかわからない」「就職活動で不利になるのが怖くて発言・行動がしづらい」という深刻な状況もわかりました。これを受け、「GENCOLLEGE（ジェンカレ）」というサービスを作り、オンライン上での若者の居場所（サードプレイス）を運営し、若者同士の連携や、様々な社会資源との接続を支援しています。

こうした私の活動の基礎には、学生時代の経験があります。私は現在27歳（1995年生まれ）ですので、女子差

別撤廃条約の採択や、北京宣言及び行動綱領採択当時のことを知りません。しかし、時代を超えて先頭に立ち続け、ジェンダー平等な日本を目指してこられた先達の皆様が、学生時代の私を常に導いてくださったおかげで、世代を超えた知識と関係性を得て、現在に至っています。国連ウイメン日本協会もGeneration Equality Forumに取り組んでいますが、世代を超えた連携のおかげで今がある私は、その大切さを実感しています。様々なステークホルダーとともにジェンダー平等を目指して活動する連携の輪が広がることを祈念しています。

2023年国際女性デーのテーマが決定 「全てをデジタルに (Digit ALL):ジェンダー 平等のためのイノベーションとテクノロジー」

2023年3月8日の国際女性デー (IWD 2023) のテーマは、「全てをデジタルに:ジェンダー平等のためのイノベーションとテクノロジー」です。このテーマは、来たる第67回女性の地位委員会 (CSW-67) の優先テーマ「ジェンダー平等とすべての女性と少女のエンパワーメントを達成するためのデジタル時代のイノベーションと技術変化、教育」に添っています。

国際女性デーは、変革的なテクノロジーとデジタル教育の進歩を推進している女性と少女を表彰し、祝います。IWD 2023のテーマは、「デジタルジェンダーギャップが経済的および社会的不平等の拡大に与える影響を調査しよう」です。このイベントでは、デジタル空間における女性と少女の権利を保護し、オンラインおよびICTが促進するジェンダーに基づく暴力に対処することの重要性にもスポットライトを当てます。

女性やその他の疎外されたグループをテクノロジーに参加させることは、より創造的な解決をもたらし、女性のニーズを満たし、ジェンダー平等を促進するイノベーションの可能性を秘めています。UN Womenのジェンダースナップショット2022レポートによると、デジタル世界からの女性の排除は、過去10年間で低中所得国の国内総生産から1兆ドルを削りましたが、その損失は2025年までに1.5兆ドルに拡大します。この傾向を逆転させるには、51カ国を対象とした調査で、女性の38%が個人的に経験したことが明らかになったオンライン暴力の問題に取り組む必要があります。

イノベーション、テクノロジー、デジタル教育に対するジェンダーに配慮したアプローチは、女性と少女の権利と市民参加に関する意識を高めることができます。デジタル技術の進歩は、開発と人道的課題に取り組み、2030アジェンダの持続可能な開発目標を達成するための計り知れない機会を提供します。残念ながら、デジタル革命の機会は、ジェンダーの不平等の既存のパターンを永続させるリスクも提示します。デジタルスキルとテクノロジーへのアクセスの文脈で拡大する不平等がますます明らかになり、このデジタルジェンダー格差の結果として女性が残されています。したがって、包括的で変革的なテクノロジーとデジタル教育の必要性は、持続可能な未来にとって極めて重要です。

2023年3月8日水曜日の午前10時から午前11時30分 (東部標準時) に、「DigitALL:ジェンダー平等のためのイノベーションとテクノロジー」をテーマにした国際女性デーハイレベルなイベントが開催されます。このイベントでは、技術者、イノベーター、起業家、ジェンダー平等活動家が一堂に会し、デジタルツールへのアクセスを改善する上でのすべての利害関係者の役割を強調する機会を提供

し、その後、ハイレベルのパネルディスカッションと音楽パフォーマンスが行われます。

(翻訳: 橋本ヒロ子理事長)



10月10日「国連ガールズデー」 チャリティ イベント開催のご報告

国連ウィメン日本協会は、国連「ガールズデー」を記念し、10月10日「世代を超えて考えよう、少女たちの未来を!」のテーマのもとにチャリティ イベントを実施、世代を超えて、学生や20代の方々から80代の方まで、91名の方にご参加いただきました。ご参加いただきました方々には、心よりお礼を申し上げます。

メインスピーカーの櫻井彩乃さんは「ジェンダー平等に向け、今こそ世代を超えた連帯を」と題したスピーチの初めに、高校2年の時に、「女は黙って可愛くしていればいいのだよ」と同学年の男子に言われたことがジェンダー平等を自身のライフワークとしてやってゆくことのきっかけであった話が披露されました。ジェンダー平等を推進するにはあらゆる世代で連携していくことの重要性に触れ、世代を超えた若者の価値観と先輩方の生き方を共有するイベントや勉強会を開催していることや、第5次男女共同参加基本計画のために約1000人の若者の声を集め、ユース提言を基本計画に反映できたこと、また、若者のジェンダー平等への関心に関するいくつかの調査をまとめられ、その興味深い結果も発表されました。

現代の若者の考え方を基に、その周囲の人たちは、何を共に考え、行動してゆくべきか、を問う大変意義深い講演でした。

この後、国連ウィメン日本協会橋本ヒロ子理事長より、ユースを支援するUN Womenのプログラム、FGM施術師の新たな職業訓練、アルバニアの少女たちの自己防衛トレーニング、少女のためのITC研修などについて、スライドを交えて、事例が紹介され、その後閉会となりました。

(岩城淳子副理事長)



・オンライン イベントの動画視聴はこちら

<https://youtu.be/IG7bBXmfbgg>

なお、動画内のテキスト・画像の無断転載、無断使用はご遠慮ください。

カテリーナさんが奏でる「ウクライナへの祈りコンサート」が開催されました。

12月1日、東京ウイメンプラザで、国連ウイメン日本協会主催「カテリーナさんが奏でるウクライナへの祈りコンサート」が、国連の定める「女性に対する暴力撤廃のためのグローバルな行動の16日間」の一環として開催されました。

キャンペーンのテーマカラー、オレンジ色の装飾が参加者を迎える中、会は、コルンスキー駐日ウクライナ大使の挨拶で始まり、大使は紛争下で懸命に戦っている女性兵士の話に触れ、彼女たちの士気の強さについて語られました。

続いて、日本協会橋本ヒロ子理事長がUN Womenの活動を紹介、その後、カテリーナさんのコンサートが始まりました。平和時の美しいウクライナの景色映像を背景に、カテリーナさんの美しい歌声とバンドウーラの演奏が披露されました。カテリーナさんは、65弦、重さ8kgのバンドウーラを華麗にはじきながら、ウクライナ民謡の「幸せの鳥」「母への道」「マリーゴールド」さらに彼女の作詞作曲によるオリジナル曲「平和な空」を初披露してくださり、アンコールでは、日本の「ふるさと」をアカペラで歌いました。参加者たちは感極まる思いで、カテリーナさんの演奏に引き込まれている様子でした。

ステージの最後に、カテリーナさんから祖国への熱い祈りのメッセージが参加者に伝えられ、大きな拍手のうちに終了しました。コンサート後、ロビーでは、参加者たちがカテリーナさんを囲み、素晴らしいコンサートへの感謝の気持ちを伝えていました。

このコンサートの参加費から、運営費を除いた金額が、避難、被災しているウクライナの女性たちの支援のためにUN Women本部に送られます。

(岩城淳子副理事長)



協力協定団体の活動

国連ウイメン日本協会 北九州

国連ウイメン日本協会北九州では、2022年度も7月に恒例のチャリティーバザーと12月に講演会を開催することができました。

チャリティーバザーは、昨年新型コロナウイルス感染防止ノウハウを生かして、参加人数及び時間を区切った入替制と入口と出口を別々に設けて参加者が滞留しないように心がけ

るなど、スムーズにお買い物を楽しめるようにしました。また、値付けも色分けシールの貼付を採用し、参加者にわかりやすく、かつ準備の負担軽減につながりました。さらに100円均一コーナーの新設は、掘出し物選び感覚で思わぬ人気を呼ぶと同時に主催者としては値段をつけにくい品物を多く売ることができ、結果売り上げは、115,600円と昨年より売上金が増加しました。

講演会は、12月11日(日)に、法学博士で国際法・国際機構法が専門の北九州市立大学法学部教授・副学長の二宮正人さんを講師にお迎えして、「女性・少女の人権を守るために私たちに何ができるか～ジェンダー平等を達成するために国際法はどう役立つか」と題して開催しました。

近年アフガニスタンやウクライナなど紛争が起こった地域で、女性・少女の人権が侵害され、暴力を受けるケースが増えている状況を国際的世論の高まりによって、少しでも改善できないかについてお話いただくとともに、市内の学生2名及び国連ウイメン日本協会北九州役員2名と講師との質疑応答もありました。参加者からは、時機を得たテーマでとてもよかったとの感想がありました。

事務局 西山陽子



2022年度講演会(12月11日開催)の様子

国連ウイメン日本協会 大阪

2022年12月4日(日)に、クレオ大阪中央にてヒューライツ大阪とクレオ大阪中央主催の「じんけんシネマ2022」が開催され、国連ウイメン日本協会大阪も共催団体としてブース出展をしました。当イベントは、毎年12月の人権週間にあわせて開催されており、今年で5回目の開催になります。今年、『ザ・トゥルー・コスト～ファストファッション 真の代償』と『モロッコ、彼女たちの朝』の2作品を上映しました。たくさんの方にご参加いただき、映画を通して、サプライチェーンの人権課題や、モロッコ社会における、シングルマザーが直面する困難と連帯について考える機会となりました。参加者からは、「一消費者として、地球環境や労働者について考えることが大切だと感じました」、「女性の生き方について考えさせられました」といった声をいただきました。

事務局 長栄くみ子



「じんけんシネマ2022」の様子



国連ウィメン日本協会 よこはま

前号でお伝えしたようにショップ活動はフォーラムの大規模工事のため5月から約1年間休止の予定です。カタログ販売や会員の友人を通じての販売など販路を模索する中、活動で繋がりのあるWE21ジャパンの「かながわ」と「とつか」のWEショップ様に委託販売が実現しました。約半年の間にタウン誌や会報で私たちの活動を紹介してもらい、イベントへの出店参加も感謝しながら楽しく一緒にしました。ネットワークの有難さ・必要性を噛み締めています。

また、企画事業としては11/27(日)、3年ぶりにチャリティコンサート「ビルマン聡平(バイオリン)×中山博之(ピアノ) Duoコンサート」を実施しました。

二人の男性奏者を迎えて久しぶりに生で聞く音楽の迫力・素晴らしさに、小規模サロン風の会場は大満足の感動に包まれました。

活動可能な会員数の減少がコロナ禍で拍車がかかり、様々な難題が山積していますが、よこはまは1994年1月に創立してから来年30年目の歩みを進めます。

副会長兼総務部会長 竹内美千代



出演者のビルマン聡平さんと中山博之さん

国連ウィメン日本協会 東京

10月6日に古賀政男音楽博物館けやきホールにて第32回チャリティコンサートを開催しました。チェリストの海野幹雄さん、ピアノ伴奏に海野春絵さんをお迎えした「海野幹雄チェロリサイタル」は、雨天にも拘らず沢山のお客様をお迎えし、心に響く美しい音色に心奪われる素晴らしいコンサートになりました。曲の合間のトークも会場を和ませるものでした。海野ご夫妻から、チャリティの趣旨に賛同されてCDの売り上げの一部をご寄付いただき、温かいお人柄にも触れることができました。

今年度の連続講座には、清泉女子大学地球市民学科安齋徹教授による「大学教育最前線」～これからの社会が求めるリーダー像を考えよう～全4回(於: 婦選会館)を企画しました。10月17日の第1回はテーマ「プロジェクト」

で、アクティブラーニングの実際を紹介、11月21日第2回はテーマ「コンセプト」で、問題解決に必要な「思考力」を鍛えるためのモノの見方・考え方について学びました。次年度には第3回、第4回を開催する予定です。

副会長 阿部幸子



「海野幹雄チェロコンサート」盛大な拍手に応える演奏者

国連ウィメン日本協会 さくら

新型コロナウイルス発生から3年。ポストコロナを見据えた学習会をリモートで開催致しました。

大槻明子会長を中心に日本における男女共同参画の取り組みや「デジタル分野におけるジェンダーギャップ解消」の重要性について学び合いました。

コロナ禍で傷ついた女性の救済や紛争、災害と女性、そして男性の役割など、多様性と共生社会に立脚した平和の確立が大事である事を学び、国連ウィメンの精神でもある、①女性のリーダーシップと参画の拡大②女性の経済的エンパワーメント③持続可能開発目標の履行について学習。

世界に大きく目を向け、国連ウィメンの果たす役割と使命を訴えました。

副会長 小山志賀子



国連ウィメン日本協会 多摩

国連ウィメン日本協会副理事長の岩城淳子さんを講師にお招きして7月に講演会「女性の自立とリーダーシップが世界を変える!」を開催。今年度2回目のイベントを12月25日に企画中です。カンツォーネとシャンソンを一度に味わう「ちょっとおしゃれな」内容を考えています。

コロナ禍でなかなかコンサートを開催するのも難しいものがありますが、感染予防対策を充分に行いながら、楽しい催しにしたいと思います。久々に会員の皆さんやコンサートを待ちかねてくださっていた方々とお会いできるのが楽しみです。

広報担当 高橋由美



クリスマスコンサート

事務局からのお知らせと報告

■ご寄付のお申込みについて

日本協会への寄付は毎月定額をご寄付いただく「継続寄付」(マンスリードネーション)とその都度ご寄付いただく「都度寄付」があります。いずれの寄付も税制優遇措置の対象になります。

お申込みは、国連ウィメン日本協会HPに掲載されております、こちらのページからお願い致します。

<https://www.unwomen-nc.jp/donation/#kifu>



「継続寄付(マンスリードネーション)」毎月定額のご寄付を続けていただく募金方法です。

毎月のご寄付は、世界の女性・少女を支援するUN Women が継続的にプログラムを展開するうえで、なくてはならないご支援であり、世界の女性・少女に希望の未来をもたらします。一度お申込みいただければご指定のクレジットカードからの自動引き落としが可能な、インターネット決済をおすすめします。

インターネット決済では、「継続寄付」をお選びいただき、毎月の定額を1,000円、2,000円、3,000円、5,000円のいずれかを選択していただけます。

「都度寄付」

寄付のお申し込みを随時、その都度お受けいたします。インターネット決済の場合は「都度寄付」を選択していただき、1口1,000円からのご寄付をお願いしております。

また、郵便振替もご利用いただけます。

郵便局 振替口座番号:00240-7-43928

口座名義:NPO法人

国連ウィメン日本協会

■賛助会員募集中

事務局へご連絡いただくか、ホームページからお申込みいただけます。

【年会費】個人 1口 5,000円
団体 1口10,000円

■「#ともに社会を変えよう」キャンペーン

UN Womenは、困難な状況にある女性や少女のために、変化を起こしてきました。女性もリーダーになれる、女性も経済的に自立できる、女性への暴力がない、機会が平等に得られる社会にするために世界の女性とともに、ジェンダー平等な社会を目指しませんか? 詳しくはこちらをご覧ください。

https://www.unwomen-nc.jp/202208_campaign/



■Readyforによる継続寄付(毎月募金)募集中

「女性に対する暴力をなくしたい」女性に対する暴力のない世界へ マンスリーサポーターとしてご支援を8月より女性・少女に対する暴力撤廃をテーマにプログラムを継続的に支援して下さるマンスリドナー50人の獲得を目指します。詳しくはこちらをご覧ください。

<https://readyfor.jp/projects/97988>



■遺贈を受け付けております

日本協会では2021年の9月よりホームページで遺贈のご案内をしております。遺贈とは遺言によって財産を特定の個人や団体へ無償で寄付することですが、その手続きの流れ、相続税の優遇措置などをご紹介します。故人のご遺志は、国連ウィメン日本協会から毎年UN

Womenに送金する拠出金に含ませていただき、UN Womenが世界で展開する女性・少女のためのプログラムの資金に活用させていただきます。

あなたが、世界の女性・少女たちに、生涯生き抜く力と夢を与え、あなたの想いが未来へとつながっていきます。

詳しくはこちらをご覧ください。
https://www.unwomen-nc.jp/?page_id=1991



■正会員団体14団体

(前回掲載以降2022.12.31現在)

(公財)アジア女性交流・研究フォーラム
NPO法人一冊の会 国際婦人年連絡会
堺市女性団体協議会 (公財)横浜市男女共同参画推進協会 (一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会 群馬婦友会
国連ウィメン日本協会よこはま
国連ウィメン日本協会多摩 全国友の会
(株)高島屋 国連ウィメン日本協会さくら
国連ウィメン日本協会東京
国際ゾンタ26地区

■正会員個人30名

(前回掲載以降2022.12.31現在)

■賛助会員団体12団体

(前回掲載以降2022.12.31現在)

日本生活協同組合連合会政策企画部
にいがた女性会議 越谷ミズの会
(公財)佐賀県女性と生涯学習財団
(株)フジテレビジョン 国際ゾンタ姫路ゾンタクラブ (株)クロスメディア・ランゲージ
特定非営利活動法人ウィメンズアイ
国連ウィメン日本協会北九州
(一社)大学女性協会 (株)Mar United
横浜新港倉庫(株)

■賛助会員個人131名

(前回掲載以降2022.12.31現在)

以上、敬称略

<認定>NPO法人国連ウィメン日本協会

事務局

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1

男女共同参画センター横浜内(フォーラム)

・TEL/FAX 045-869-6787

・E mail unwomennihon@adagio.ocn.ne.jp

・ホームページ <https://www.unwomen-nc.jp>

●交通のご案内 JR・横浜市営地下鉄「戸塚駅」下車、徒歩7分

